



幻の鳴く虫となるか

秋の鳴く虫の盛んな頃を迎えています。鳴く虫と言えばスズムシ、マツムシの名がすぐに上がりますが、「あれマツムシが鳴いているチンチロチンチロチンチロリン…」と歌われる唱歌の中に登場するガチャガチャガチャガチャクツワムシは私にとっては懐かしい虫の一つでした。

以前は水戸の市内でもあのうるさい鳴き声を聞く事が出来ましたが、今では幻の鳴く虫となってしまいました。

ところが、私の虫友である荻沼正和さんが、茨城町で鳴いているところを見つけました。まだ身近な所に生息していたのだと驚き、茨城町が里山の自然の良さをまだまだ残している町だと改めて実感しました。

里山に育む生きものたち

43 クツワムシ

(バッタ目 キリギリス科)

学名 Mecopoda nipponensis (de Haan.1843)
(茨城県 絶滅危惧ⅠB類)

文 / 小菅 次男
写真 / 荻沼 正和

分布の北限に近い産地

クツワムシは日本固有種で本州の福島県南部・新潟県以南から九州まで分布する暖地性の種です。体長は5cmほどで体色が緑色と褐色の個体の両方が見られ、上から見ると幅が狭く、横から見ると幅が広いのが特徴です。

夜行性で開けた場所よりは林の下や林縁に生息し、マメ科植物、とりわけクズの葉を好んで食べます。

キリギリス科の中では見かけは一番大きく、鳴き声も極めて大きくガチャガチャと騒々しい限りです。しかし、体や鳴き声に似ずキリギリスのようにかみつかないの子どもでも素手で捕まえやすいおとなしい虫です。

名前の由来は

クツワムシの名は、鳴き声が馬のくつわがガチャガチャと鳴る音に由来します。そばで聞くと鳴き声がうるさ過ぎますが、遠くで聞くとそれなりの趣を感じます。鳴くのは日が暮れてからで、昼はまったく鳴かず草むらの中で眠つたようにじっとしています。

幼虫は早い個体では7月下旬より出現し、野生で声が聴かれるのは8月末から10月までです。飼育下では良い環境を保つと年を越して2月まで生きることもあるそうです。

環境破壊に弱かった種

大型で目立つ上に動きが鈍いため天敵に狙われやすく、飛ぶ能力も弱く、住むところもクズの群落などに限られることもあって、環境破壊に弱く、各地で減少と絶滅が進んでいます。また一旦破壊された環境が回復しても、生息地への復元はなかなかできていません。

一方で人為的に移入された外来種のタイワンクツワムシが南西諸島や南九州ではすでに普通種の昆虫になっています。この虫も温暖化の影響を受けて分布を北上させ、横浜や東京でも発見されています。鳴き声は始めにギース・ギース・ギースと数回繰り返した後ギーと鳴き続けます。クツワムシへの脅威とならなければよいのですが。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤1080 TEL 029-292-1111 FAX 029-292-6748
ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成27年9月末現在)
◆総人口 33,574人 (-154)、男 16,755人 (-109)、女 16,819人 (-45) ◆世帯数 12,665世帯 (-136)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インキを使用しています